



5 万分の 1 地質図幅の新刊

相 沼

AINUMA

5 万分の 1 地質図幅
地域地質研究報告

著 者 沢村孝之助 (海外地質調査協力室)
秦 光男 (地質部)
発 行 工業技術院 地質調査所
取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401

- 相沼図幅は北海道渡島半島のほぼ中央部にあって渡島半島の分水界から日本海に面する地域を占めている。
- 南隣は江差追分で有名な「江差」と 東は地熱開発の有望な地として脚光をあびている濁川盆地のある「濁川」と接している。山地は急峻で分水界を中心に熊(ひぐま)が多く生息していることでも名高い地域である。
- 地質は東北日本のいわゆるグリンタフ地域の北方延長部に当たり 中・古生界の松前層群の堆積岩と白

亜紀の進入になる花崗閃緑岩を基盤として新第三系が広く発達している。特に道南の前期中新世から後期鮮新世に至る標準層序のすべてに対応する地層が分布していることと各層準における火山活動の中心が比較的明瞭で 堆積盆地の地史的変遷がよくうかがえる地域である。

新第三系の堆積盆地は南北方向の軸を持つ相沼ベーズンと西方の熊石ベーズンに大別され その境には北方の遊楽部岳ドームから延びる隆起部があつて それぞれ異なった発展をなしている。すなわち

新第三系の上半部の地層(大安在川層・江差層・館層及び瀬棚層など)の堆積の場として発展している。更に江差層の堆積時期から始まった海底火山による大量の噴出物(突符火山岩類及び相沼火山岩類)と江差層及び館層の泥岩や砂岩などの堆積岩との関係もよく分かる。

- 相沼ベーズンの中央部には大きな花崗斑岩の岩床状をなす貫入岩体がある。貫入部周縁は断層関係の所が多いが 突符火山岩類との関係も比較的よく観察される。
- 主部をなす相沼ベーズンの褶曲及び断層は 南北性の構造を基本としているが 断層にはこれと斜交する北西-南東方向あるいは東西方向のも顕著である。
- この地域には 地すべりなどによる大規模な崩壊地地形が多く認められており これらの主なものは地質図に示されている。

地質ニュース

第325号 9 月 号

定価 ¥ 540 千 実 費

昭和56年9月1日

発行

編 集

工業技術院 地質調査所

発行人

林 久 雄

発行所

株式会社 実業公報社

東京都千代田区九段南4の2の12

Tel. (03) 265-0951 (代表)

振替口座 東京 32466

総発売元

大蔵省印刷局 政府刊行

東京都港区赤坂葵町2

Tel. (03) 582-4866